

和太鼓チャレンジコンサート2021

活動報告書

開催日／2021年 7月22日～12月12日

主催／特定非営利活動法人和太鼓文化研究会

後援／東京都

社会福祉法人東京都社会福祉協議会

社会福祉法人NHK厚生文化事業団

特定非営利活動法人日本バリアフリー協会

コバケンとその仲間たちオーケストラ

株式会社太鼓センター

助成／子どもゆめ基金

〈募集結果〉

首都圏を中心に全国を対象に、チラシ・インターネットホームページ等で、募集した結果、以下の参加があった

個人エントリー	55名
和太鼓練習会参加（6回延べ）	234名
チームエントリー	6チーム
和太鼓チャレンジコンサート	349名（12/12）
〈内訳〉舞台発表	
出演者	114名（内障がい者114名）
観覧者（上記除く）	235名（障がい者・子ども116名 一般119名）
協力 ボランティア	27名
スタッフ・事務局	8名

〈活動内容〉

7月22日（木・祝）個人エントリー第1回練習会（カルチャー棟・練習室）

8:30 スタッフ集合・準備
10:00 開始（曲目毎にメンバー入れ替えて各1時間の練習）
健康チェック・手指消毒、途中で休憩・換気をして実施
29名参加
16:00 終了・片付

8月29日（日）個人エントリー第2回練習会（カルチャー棟・練習室）

8:30 スタッフ集合・準備
10:00 開始（曲目毎にメンバー入れ替えて各1時間の練習）
健康チェック・手指消毒、途中で休憩・換気をして実施
33名参加
16:00 終了

9月20日（月・祝）個人エントリー第3回練習会（カルチャー棟・練習室）

8:30 スタッフ集合・準備
10:00 開始（曲目毎にメンバー入れ替えて各1時間の練習）
健康チェック・手指消毒、途中で休憩・換気をして実施
38名参加
16:00 終了

10月31日（日）個人エントリー第4回練習会（カルチャー棟・練習室）

8:30 スタッフ集合・準備
10:00 開始（曲目毎にメンバー入れ替えて各1時間の練習）
健康チェック・手指消毒、途中で休憩・換気をして実施
47名参加
16:00 終了

11月28日（日）個人エントリー第5回練習会（カルチャー棟・大ホール）

8:30 スタッフ集合・準備
10:00 開始（曲目毎にメンバー入れ替えて各1時間の練習）
健康チェック・手指消毒、途中で休憩・換気をして実施
48名参加
16:00 終了

12月11日（土）個人エントリー第6回練習会（カルチャー棟・リハーサル室）

12:30 スタッフ集合・準備
13:00 開始（ステージの配置、出入りの確認・練習）
健康チェック・手指消毒、途中で休憩・換気をして実施

39名参加

17:15 終了、

18:00 移動・宿泊（事務局・希望者のみ）

12月12日（日） 会場／カルチャー棟大ホール・リハーサル室

「和太鼓チャレンジコンサート 2021」

8:30 スタッフ集合・準備

10:00 舞台リハーサル開始

12:20 リハーサル終了

12:30 開場

13:00 開演

個人エントリー（チャレンジチーム5曲）50名

エントリーチーム（6チーム）

ゲスト

15:20 終了・片付け

16:30 スタッフ解散

〈指導者・ゲスト〉

指導：和太鼓講習会～コンサート

吉岡 美佳（NPO法人和太鼓文化研究会理事）

倉持 武夫（NPO法人和太鼓文化研究会理事）

玉田 菅雄（NPO法人和太鼓文化研究会理事）

他・サブ・サポートメンバー

ゲスト：「龍鼓未来」

友野龍士、山本 一、瀬戸洋平、山本順平

〈会計報告〉（助成金対象経費集計）

収入の部

個人エントリー参加費 117,000円 (@500*延べ234名)

チャレンジコンサート 408,500円 (1500*119+1000*230)

助成金・寄付金 1,284,000円 (予定)

計 1,809,500円

支出の部

謝金 829,000円 (指導者・協力者・デザイン等謝金)

旅費 34,700円 (スタッフ交通費)

雑役務費 371,415円 (照明・太鼓手配等委託費・振込手数料等)

印刷費 82,012円 (チラシ・ポスター・チケット・プログラム・資料印刷費)

通信運搬費 91,088円 (資料郵送費、運搬費)

会場費 292,640円 (会場費、打合せ会場費)

借料損料 141,590円 (太鼓以外、トランスポーター)

消耗品費 19,078円 (企画材料、事務用品)

計 1,861,523円

収支差額

-52,053円 (団体財政より)

〈成果および次回への課題〉

- ①「和太鼓チャレンジコンサート2021」は、チャレンジド（障がい児者）への和太鼓普及を目的とした「和太鼓療育フォーラム」の一環として17回目の開催であった。この中で今回新たに「個人エントリー」による出演希望者を募集し、6回の練習会を経てコンサートで演奏する、という企画を実施した。募集結果は、55名のエントリーがあり、途中辞退となったメンバーを除き、50名が舞台上がり、和太鼓・民舞の演奏演舞を発表することができた。初めて和太鼓演奏に取り組んだ子ども達や、地域や学校の枠を超え初めて出会った仲間たちが交流しながら練習に取り組み、見事に発表することができた。ハンデ（障がい）を持った青少年に学び交流し成長できる「和太鼓」演奏の場を提供することができた。
- ②12/12 コンサート本番は、昨年に引き続き、新型コロナウイルスの感染が収まらず、開催が危ぶまれたが、感染拡大防止対策をしっかりと講じての開催とした。結果は、都市部への外出を控える傾向も強く、首都圏を中心に、349名の参加が得られた。また、協力ボランティア35名も含め、384名の参加となった。
- ③チャレンジコンサートは、個人エントリーの他チームエントリーによる6チームとゲストチームが出演した。ステージに上がったチームは、「和太鼓は楽しい」と全身で表現しつつ、「コロナに負けずにがんばって練習してこの日を迎えた」その意気込みを感じる演奏が続いた。
- ④ゲスト演奏では、障がい者のみの和太鼓チーム「龍鼓未来」の篠笛と和太鼓の斬新な魅力的ステージとなり、出演チームメンバーや来場者に勇気と感動を与えてくれた。また、特別企画「疫病退散・獅子舞」もコロナ禍に負けず明るい未来へ誘う舞台となった。
- ⑤チャレンジド（障がい児者）にとって「和太鼓」は、取り組みやすく魅力的な楽器であり、演奏意欲を引き出してくれる楽器である。今年もコロナ禍の中、練習もできないチーム、練習は何とかできているが演奏披露する場が全く無い等、各チームにとって厳しい年であった。このような中で、このコンサートは「発表交流」の場を提供したこと自体に大きな意義があり、呼びかけに応じて出演してくれた個人やチームの仲間たちの努力・協力によって成功裏に終了することができた。
- ⑥財政面では、参加者が今年も少ない結果となり、参加者からの参加費収入が減り厳しい状況となったが、助成金等が得られたため、ボランティアスタッフ謝金など支給できた他、募集費用、運営費用を賄う事ができた。今後もハンデのある青少年を対象とした事業を発展させるには、助成金や寄付金等外部からの支援も得ながら財政基盤を強化することが課題である。
- ⑦運営面では、運営事務局及び当日スタッフ体制は、多くのボランティアの協力が得られ、感染症予防対策もしっかり講じつつ活動出来た。

〈活動の様子〉

7/22「第1回練習会」



8 / 29 「第2回練習会」



9 / 20 「第3回練習会」



10 / 31 「第4回練習会」



11 / 28 「第5回練習会」



12/11「第6回練習会」



12/12「和太鼓チャレンジコンサート2021」

